

「学習過程可視化法」を活用した授業検討会 ～子供の姿の見える化を重点とした研究協力校における取組事例～

総合支援部小中学校支援課

はじめに

「学習過程可視化法」は、当センターが平成30年3月に発行した「主体的・対話的で深い学び」実現のためのサポートブック（以下、「サポートブック」という。）に掲載した授業検討会の手法です。

小中学校支援課の研究協力校では、校内研修にサポートブックの考え方を取り入れ、「授業設計診断」の4項目を指導案の形式に組み込み、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進めました。

また、研究授業後の授業検討会では、「学習過程可視化法」を用いた事後研修に取り組みました。実践の概要は次のとおりです。

研究協力校の実践

P(Plan) 指導案の検討

「アイデアシート」を指導案に位置づけ、「解決したい課題や問い」「やりとりの充実」「深い学びの表出」の3つの視点の具体化やつながりを意識し、指導案作成・検討を行う。

A(Action) 成果と課題の整理

チェックシートの検討から、本時について、3つの視点に沿って成果と課題を整理し、自分自身の授業改善につなげていく。

D(Do) 授業記録 (子どもの見取り)

参観する教師は、自分の担当児童一人を授業の最初から最後まで見取り、発言、行動、表情などを付箋に随時記入する。

C(Check) 学びの変容・手立ての検討

チェックシートに記載した付箋を貼り、個の学びの姿や、やりとりによる学びの深まり、手立ての有効性について検討する。

授業改善に向けたアイデアシート（本時にかかわる最小のまとまり）

視点3（深い学びの表出）学習の成果	視点1 解決したい課題や問い
学習の成果	解決したい課題や問い
視点2（やりとりの充実）対話と思考	視点4（やりとりの充実）考えるための材料
対話と思考	考えるための材料

授業設計アイデアシートを活用した授業づくり

学習過程可視化法を用いた授業検討会

研究協力校の取組

◇「授業設計アイデアシート」を活用した授業構想

授業設計アイデアシートの形式を指導案の中に位置付け、学校独自の指導案を作成しました。

指導案の左ページ上部には単元目標と単元構想が、下部には本時の授業構想に関わる4項目の視点からの手立てや、期待する子供の姿等が示されています。

この4項目は、右ページと連動する形で本時の展開に位置付けられているのが特長です。手立ての有効性について、授業後に明確な視点をもって授業を振り返ることができるようにしました。

授業設計アイデアシートを活用した授業づくり

第1学年	国語科指導案	指導者	
単元名	『動物赤ちゃんすごいぞ！図鑑』をつくらう。 ～ちがいをかながえてようもう どうぶつの赤ちゃん～		
単元目標	動物の赤ちゃんに関する本をその様子や成長過程に関心をもち、選んで読もうとする。 ライオン、しまりま、カンガルーの赤ちゃんの特徴を考えながら、大体内容を読み取ることができる。 動物の赤ちゃんについて生まれた時の様子や大きくなっていく様子の違いについて大事な言葉や文を選んで書き抜くことができる。 文の中における主題と述語との関係に注意して文や文章を読み取ることができる。		
授業概要	『動物赤ちゃんすごいぞ！図鑑』の作り方を理解し、図鑑をつくる学習計画を立てる。(第1次)① ライオンとしまりまの赤ちゃんの違うところを読み取る。(第2次)②③④⑤⑥⑦ ライオンの赤ちゃんの生まれたときの様子を読み取る。⑧ ライオンの赤ちゃんの大きくなっていく様子を読み取る。⑨ しまりまの赤ちゃんが生れたばかりの様子を読み取る。⑩ しまりまの赤ちゃんが大きくなっていく様子を読み取る。⑪ ライオンとしまりまの赤ちゃんの様子を比べて、違いをすごいところをカードにまとめる。(本時)⑫ ライオンとしまりまの赤ちゃんとカンガルーの赤ちゃんの様子の違いを比べて、すごいところを読み取る。⑬ 動物の赤ちゃんについて図鑑で調べ『すごいぞ！図鑑』にまとめる。(第3次)⑭⑮ 『動物赤ちゃんすごいぞ！図鑑』を見せ合い、動物の赤ちゃんの違いを交流し合う。⑯		
授業改善にむけたアイデアシート(本時にかかわる最小のまとまり)			
学習の成果	解決したい課題や問い		
<ul style="list-style-type: none"> 「すごいぞ！カード」にすごいと考えた箇所となる言葉を書いて自分の考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「2つの動物はどちらがすごいのか」とを質問し、6つの視点から動物比べを行い、その根拠を考えさせる。 		
<ul style="list-style-type: none"> しまりまの赤ちゃんのすごいところは、しまりまの赤ちゃんは、生まれて三十分もたないうちに死んでしまう。ライオンは自分では歩けないからすごい。 	<ul style="list-style-type: none"> ライオンとしまりまの赤ちゃんでは、どちらがすごいのか。しまりまはやくくくく、ライオンは子ねこだから大きな比べでは、しまりまの方がすごいと思う。赤の赤ちゃんについても比べてみたい。 		
対話と思考	考えるための材料		
<ul style="list-style-type: none"> 本文の図鑑をもとに、2つの動物の「すごいぞ！カード」を作り、ワークシートに根拠を記入し、書き残す。 組の別のグループの根拠を、①～⑥の6つの違いを比べて、どちらがすごいか考えさせ、意見を交換する。 「くらべるカード」を活用し考え方を明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ライオンとしまりまの赤ちゃんの違いを対比的に観察取りやけいように2組に分けたワークシート 写真付「どちらがすごいカード」(ワークシート)(思考の可視化) 		

○本時の展開(6/10)

日時	平成 年 月 日 () 第 校時	場所	1年 級
本時の目標			
ライオンとしまりまの赤ちゃんを比較写真と本文をもとに生まれた時の様子や成長する様子を「どちらがすごいかな」をし、考えを交換する活動を通して、2つの動物の違いやすごいところを読み取ることができる。(読むこと(1)エ)			
学習活動	活動	支援・評価	
○「ライオンとしまりまの赤ちゃんすごいかな?」しよう			
○2つの写真は何をくらべているのか。解決したい課題や問い			
○生まれた時の大きさ・目や耳の様子・・・			
ライオンの赤ちゃんとしまりまの赤ちゃんはどちらがすごいかな			
①「生まれた時の大きさ」でくらべると・・・(教師)			
しまりまがすごい! どうしてかというとき、ライオンは子ねこだから大きな比べでは、しまりまの方がすごいと思う。赤の赤ちゃんについても比べてみたい。			
②「目や耳の様子」でくらべると・・・			
しまりまがすごい! どうしてかというとき、ライオンは目や耳が大きいからすごいと思う。ライオンは目や耳が小さいからすごいと思う。ライオンは目や耳が大きいからすごいと思う。ライオンは目や耳が小さいからすごいと思う。			
③「おなかのすくさくさ」でくらべると・・・			
しまりまがすごい! どうしてかというとき、ライオンは目や耳が大きいからすごいと思う。ライオンは目や耳が小さいからすごいと思う。ライオンは目や耳が大きいからすごいと思う。ライオンは目や耳が小さいからすごいと思う。			
④「生まれたときの様子」でくらべると・・・			
しまりまがすごい! どうしてかというとき、ライオンは目や耳が大きいからすごいと思う。ライオンは目や耳が小さいからすごいと思う。ライオンは目や耳が大きいからすごいと思う。ライオンは目や耳が小さいからすごいと思う。			
⑤「赤ちゃんと自分の違いを比べて」でくらべると・・・			
しまりまがすごい! どうしてかというとき、ライオンは目や耳が大きいからすごいと思う。ライオンは目や耳が小さいからすごいと思う。ライオンは目や耳が大きいからすごいと思う。ライオンは目や耳が小さいからすごいと思う。			
⑥「自分で考えをまとめておくための材料」でくらべると・・・			
ライオンとしまりまの赤ちゃんの違いを対比的に観察取りやけいように2組に分けたワークシート			
○2つの動物を比べるとどちらがすごいかな			
ぼくは、しまりまの方がすごいと思うよ。生まれてすぐは寝るからだよ。ライオンはお母さんに口で運んでもうから寝たいよ。			
ライオンは、生まれた時は弱いが、一年で運動もできるからすごいと思うよ。逃げ足が速い動物でもうかまえることができるよ。			
○「すごいぞ！カード」に自分の考えを記入し、ワークシートに書き残す。			
ぼくは、しまりまの赤ちゃんのすごいところを伝えるよ。しまりまの赤ちゃんは、生まれて三十分もたないうちに死んでしまう。ライオンは自分では歩けないからすごいよ。			
ぼくは、ライオンのすごいところを伝えるよ。ライオンは生まれて1年ぐらいでえものをつかまえることができるよ。足もはやくなんだ。			

◇「学習過程可視化法」を活用した授業検討会

研究協力校では、「学習過程可視化法」を用いた授業検討会の目的を「目標達成に向けた個の学びの変容を見取ることで、手立ての効果を検討し、授業改善につなげる」に設定し、子供一人に対して教員一人が観察者として付くようにしました。そして、授業中の子供の発話や行動などを丁寧に見取り、付せんに記入しておくようにしました。子供それぞれの表れを視覚的に捉えられるよう、付せんに色分けしています。

授業後の検討会では、記入しておいた付せんに時間軸に沿って貼りながら、子供の表れや変容を共有します。その後、授業設計診断の4項目に沿って分析しました。「解決したい課題や問い」「考えるための材料」は、授業者の期待する子供の姿を引き出すことにつながっていたかを、実際の子供の姿と照らし合わせ、手立ての有効性や改善点について検討することができました。

また、子供のつぶやきや表情、発言などから一人の子供の思考の流れをじっくり見取ったことが、自分の授業の振り返りにもつながっています。

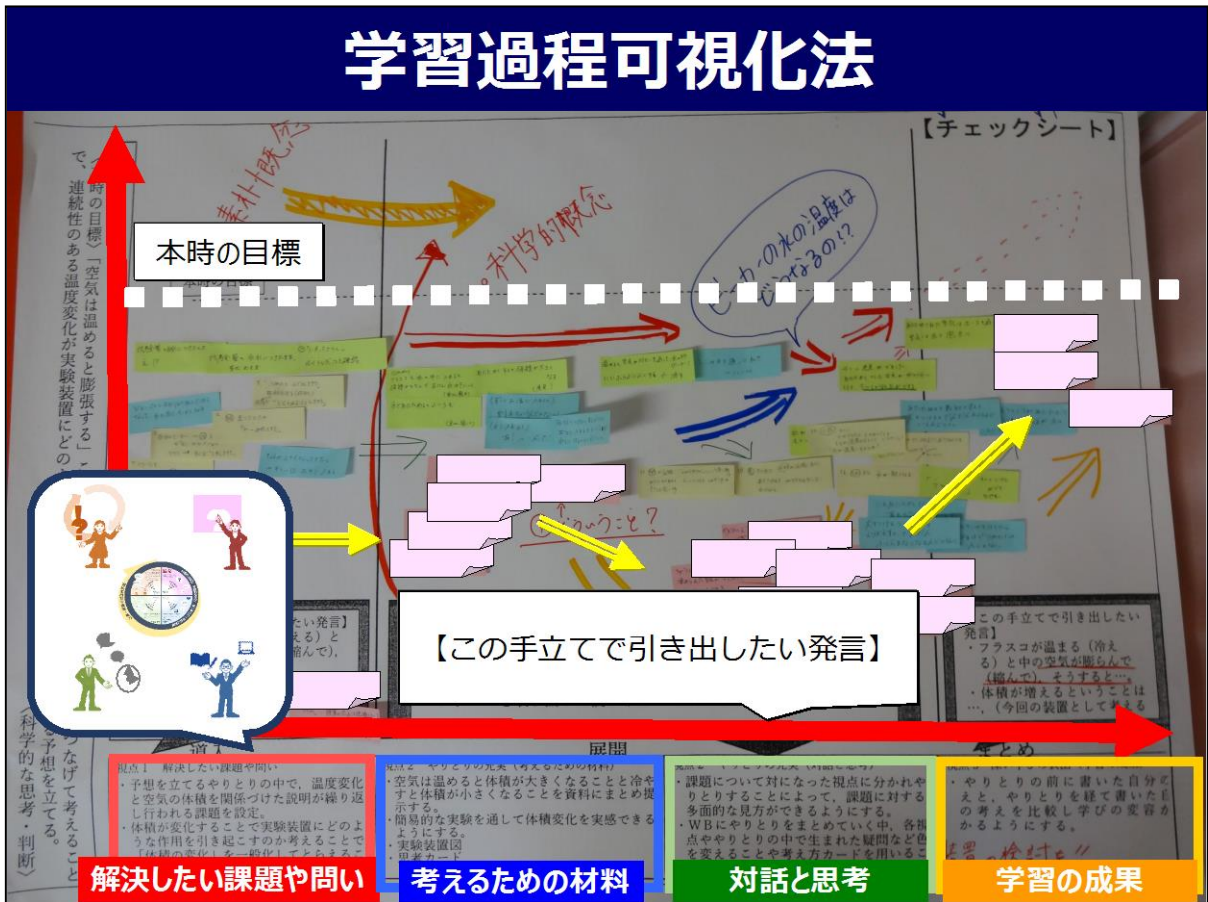
学習過程可視化法を用いた授業検討会

研究協力校における位置付け(目的)

目標達成に向けた個の学びの変容を見取ることで、手立ての効果を検討し、授業改善につなげる

観察する子どもを分担

このように、子供の表れを根拠にしながら協議することで、教員一人一人が積極的に協議に参加しながら校内研修のテーマと主体的に向き合い、同僚との協議を通して、よりよい授業づくりを目指そうとする姿につながることを意識して取り組みました。



実践から見えてきたこと

教員へのアンケート結果から、授業設計診断4項目に沿った授業展開への手応えと意識の高まりを感じる記述が見られました。また、「学習過程可視化法」は授業者及び参観者双方の授業改善に役立っていると95%以上の教員が回答しました。さらに、授業づくりにおいて、子供の思考の流れを予想しながら単元の流れを構想しようとするようになった教員の割合が、50%（4月）から85%（11月）になるなど、教員の意識の高まりを認めることができました。

これらのことから、一人の子供の学びに着目して学びを見取る経験を積み重ねることは、学級の子供一人一人の学びをよくしていこうとする授業改善の意識向上につながったと言えます。

子供一人一人の学びに目を向け、思考の変化を可視化しながら、授業改善の方向性について教員同士が語り合う授業検討会にしていくことが大切です。

「学習過程可視化法」による授業分析は、

1. 授業者の授業改善に役立っていますか。
2. あなたの授業改善に役立っていますか。

